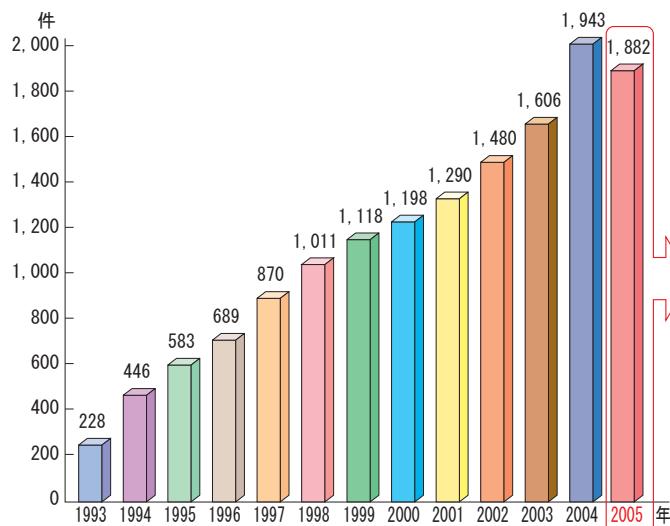


赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用 -2005年-

2005年の1年間に医療機関において輸血による副作用・感染症と疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用について示します。

輸血副作用・感染症報告件数（医療機関から報告された数、輸血との関連性なしとされた件数も含む）

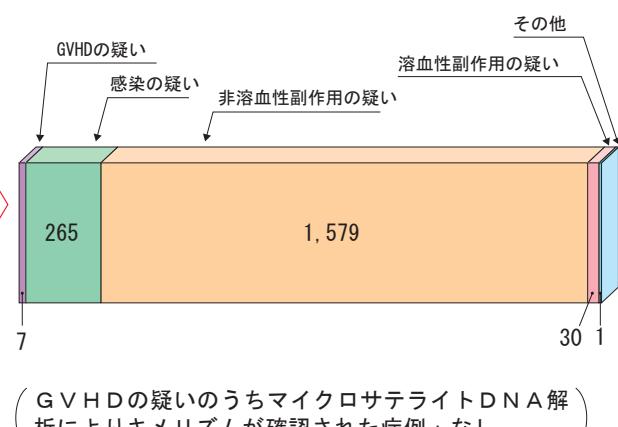
■ 報告件数の推移



■ 報告の内訳

2005年

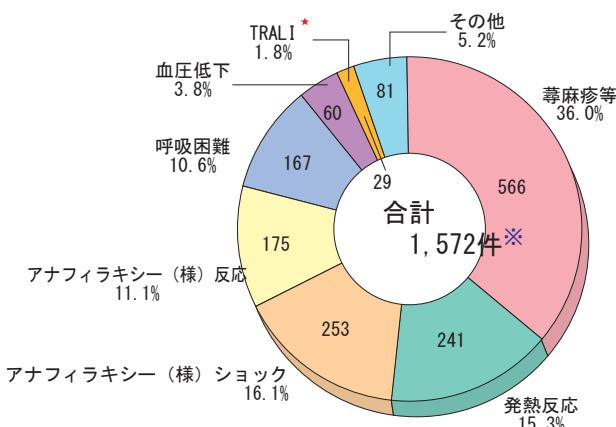
これまでと同様「非溶血性副作用の疑い」が最も多く、全体の84%を占めています。



非溶血性輸血副作用（2005年）

■ 副作用の種類

副作用の種類別の発生数及びその比率を下記に示します。このうち重篤例が多い「アナフィラキシー（様）反応」、「アナフィラキシー（様）ショック」、「呼吸困難」、「血圧低下」及び「T R A L I」は全体の44%を占めています。



* T R A L I については、確定診断及び疑診断症例の総数であり、また、報告された1件で、同一患者が2回発症している（23件30症例）

（参考）

【アナフィラキシー（様）反応】

全身潮紅、莘麻疹、血管浮腫（顔面浮腫、喉頭浮腫等）、呼吸困難等の複数の全身症状を示したもの。

【アナフィラキシー（様）ショック】

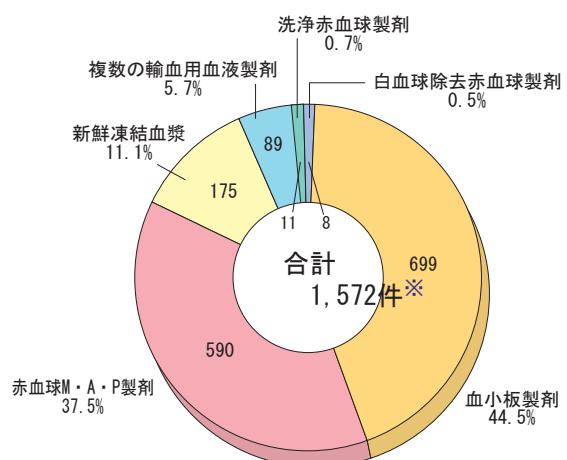
「アナフィラキシー（様）反応」に血圧低下を伴ったもの。

【血圧低下】

皮膚症状、呼吸困難等の症状を伴わずに血圧低下を示したもの。

■ 使用製剤の種類

血小板製剤の使用による副作用が多く報告されています。



上記製剤には放射線照射製剤及び未照射製剤の両方を含む。

※非溶血性副作用の報告総数は1,579件であるが、報告後担当医が「輸血との関連性なし」と判断した7件を除外して解析した。

■ 使用製剤・症状別副作用報告（頻度）

製 剤	血小板製剤	赤血球M・A・P製剤	新鮮凍結血漿
供給本数	703, 236	3, 292, 456	1, 276, 778
蕁麻疹等	313件（約1/ 2, 200）	125件（約1/ 26, 000）	94件（約1/ 14, 000）
アナフィラキシー（様）反応	102件（約1/ 6, 900）	45件（約1/ 73, 000）	
17件（約1/ 75, 000）			
アナフィラキシー（様）ショック	124件（約1/ 5, 700）	73件（約1/ 45, 000）	
31件（約1/ 41, 000）			
発熱反応	58件（約1/ 12, 000）	160件（約1/ 21, 000）	13件（約1/ 98, 000）
呼吸困難	66件（約1/ 11, 000）	77件（約1/ 43, 000）	7件（約1/ 180, 000）
血圧低下	6件（約1/ 120, 000）	48件（約1/ 69, 000）	6件（約1/ 210, 000）
TRALI	13件（約1/ 54, 000）	7件（約1/ 470, 000）	3件（約1/ 430, 000）

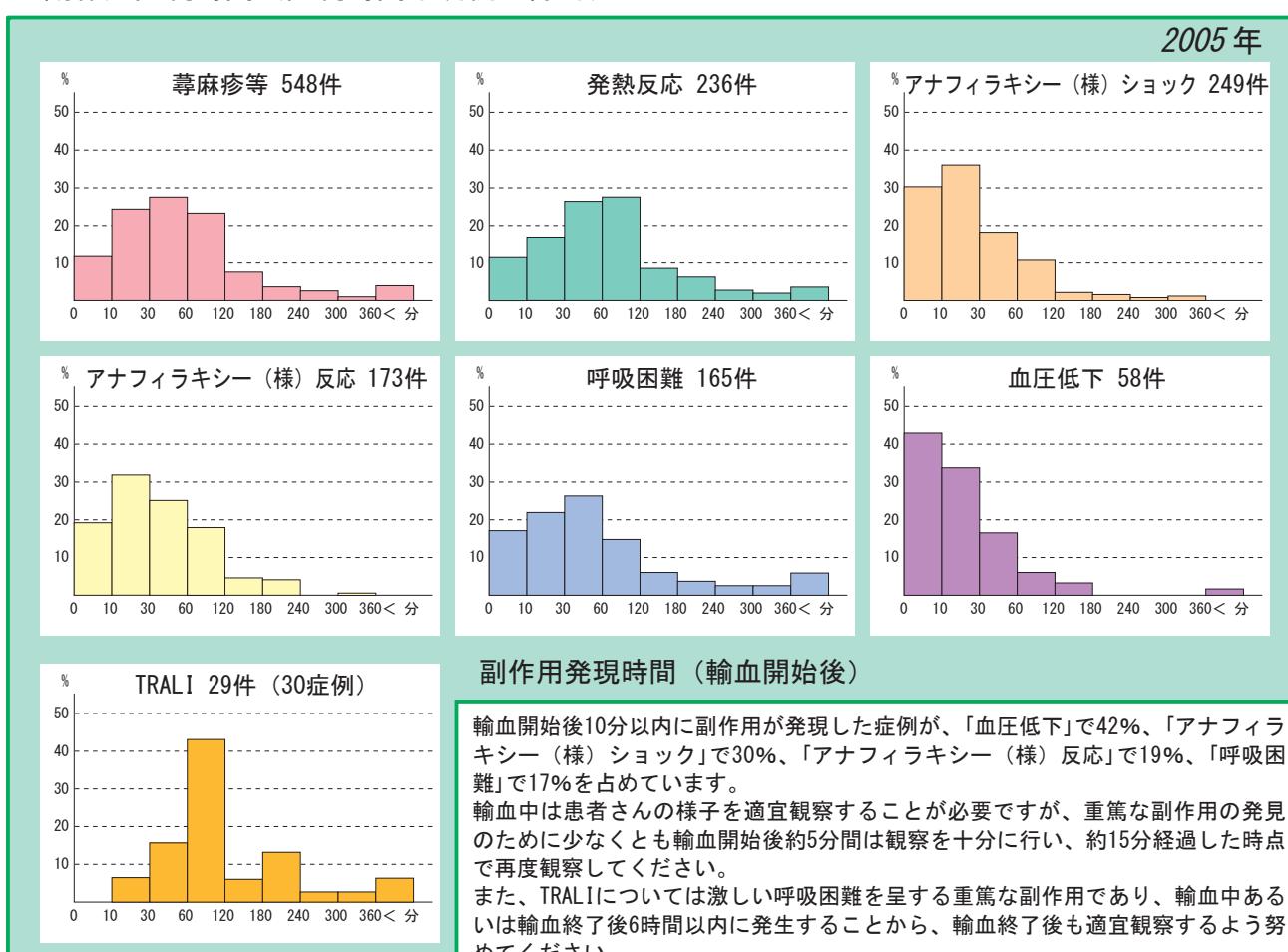
（頻度は対供給本数比）

上記製剤には放射線照射製剤及び未照射製剤の両方を含む。

供給本数に対する副作用報告頻度を使用製剤別にみると、血小板製剤が最も高く、約1, 000本に1件でした。

使用製剤・症状別では、血小板製剤の「蕁麻疹等」が最も高く、約2, 200本に1件でした。

■ 副作用発現時間（発現時間不明例は除外）



副作用発現時間（輸血開始後）

輸血開始後10分以内に副作用が発現した症例が、「血圧低下」で42%、「アナフィラキシー（様）ショック」で30%、「アナフィラキシー（様）反応」で19%、「呼吸困難」で17%を占めています。
輸血中は患者さんの様子を適宜観察することが必要ですが、重篤な副作用の発見のために少なくとも輸血開始後約5分間は観察を十分に行い、約15分経過した時点で再度観察してください。
また、TRALIについては激しい呼吸困難を呈する重篤な副作用であり、輸血中あるいは輸血終了後6時間以内に発生することから、輸血終了後も適宜観察するよう努めてください。

輸血用血液製剤または血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体（使用前後）等の提供をお願いします。
なお、使用された製剤及び患者さんの検体は「血液製剤等

《発行元》

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課

〒135-8521 東京都江東区辰巳二丁目1番67号

ホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>